

陳 述 書

2023年5月31日

福岡高等裁判所 御中

住所 宮崎県延岡市

氏名 松原 学

私は宮崎県延岡市に住みます原告の松原と申します。
今日は、私の意見を述べる場を頂き、ありがとうございます。

私は12年前の2011年3月11日に佐賀市にいます、佐賀地方裁判所にて、プルサーマル裁判の原告として、意見陳述をしていました。

その中で、放射能の危険性、原子力発電所の危険性、もし、事故があった場合には取り返しのつかないことを訴えていました。

陳述を始めるときには、たくさんいたマスコミ関係者が、一人二人といなくなり、陳述が終わったときには、誰もいなくなっていました。

何があったのだろうと、不思議に思いながら会場を移すと、津波が押し寄せる様子がテレビ画面に映っていました。

その夜から「安定ヨウ素剤はないか」「ガイガーカウンターは無いか」と私に問い合わせが入り始めました。

当時、私は九州大学の航空宇宙工学科に勤務していました。住まいも糸島市にあり、福岡の方で、小さな子供さんを持つお母さんたちに安定ヨウ素剤をお配りしたり、ガイガーカウンターを作って、放射線を測定する勉強会をしたりと活動をしていました。

福島原発事故は、私が原子力発電所の危険性を指摘したから起こったのではないかと思った事もありました。

さて、その12年前に起こった福島第一原発事故はなぜ、起こったのでしょうか。

当時、原発推進者は「原発は五重の壁に守られているから、放射能は絶対に外に漏れない」と豪語していました。

「どんなことになっても、安全に原発は止められる」と言っていました。

現実はどうでしょうか。

今現在、12年前に何が起って、原子炉はどうなっているか、わかっていません。

なぜ、安全装置は働かなかったのか。なぜ、放射能の閉じ込めが出来なかったのか。何一つきちんと検証されていないのではないのでしょうか。

安全装置は、原子力発電所に無数に走る配管がすべて健全であることが大前提となっていて、地震の振動によって、配管が破断してしまえば、制御できなくなるのは当たり前ではないのでしょうか。

配管の破断は無かったのでしょうか。あったのでしょうか。なぜ、福島原発はメルトダウンしたのか、その説明は終わったのでしょうか。

福島第一原発の事故の検証が終らないままに、国は安全基準の引き上げとか言った適当な言葉で、実質、何もしないまま、原発を再稼働させています。

航空機の世界では、重大な航空機事故が発生した場合には、同型の航空機の運航を止め、事故原因が判明し、対策が取れるまで運行は再開させません。

多くの人命を守るための当然の措置です。

墜落した機体からは、墜落直前の機体の状況、コックピット内の会話の様子を記録したフライトレコーダーやボイスレコーダーが回収され、墜落の事故原因の解明に大きな役割を果たします。

そのような、徹底的に事故原因を追究する姿勢が、航空機の安全性を高めることにつながっています。

原発では、どうでしょうか。

「メルトダウンは絶対に起こらない」と豪語していたことが実際に起こったのです。であれば、その事実を真摯に受け止め、なぜ、メルトダウンが起こったのかを徹底解明するのが先ではないのでしょうか。

その事故の検証が済まないうちに、他の原発を再起動させることは、全く、無責任なことではないのでしょうか。

裁判官のみなさん、「マーフィーの法則」という言葉をご存じでしょうか。

ピーナッツバターを塗ったパンは、悔しいけど、バターを塗った側を下にして落ちるのです。

事故を起こす可能性があるものは、必ず、事故が起こるのです。

原発の場合、事故が起こっては、困るのです。事故が起こってからでは遅いのです。

ですから、私たち原告は、社会に訴え続けているのです。

航空機や船や橋など、物を作るときには、安全余裕を設計時に設けています。

航空機の場合は、1.2倍です。船の場合、2倍から5倍、橋の場合も2倍以上です。

それは、設計者として「絶対に人命を守る」という意志の表れではないのでしょうか。

一方、原発ではいくつでしょう。プルサーマルでは1.01倍つまり安全余裕が1%と聞いてあきれています。

2011年5月に、静岡県の浜岡原発は止まりました。それ以来、稼働していません。それは、なぜでしょうか。

東京に近いからでしょうか。真下に活断層があるからでしょうか。

止めていても、国からお金をもらえるからでしょうか。

今の理由の中に、そこに住む住民の視点がまったく、入っていません。

そこに暮らす人の視点に立てば、危険極まりない原発は稼働してはならないのです。

裁判官のみなさん、どうか、今一度、放射能の危険性を認識し、それによって被害を被る全世界の人々のことを考え、即時、原発を止めてください。

私も含めて、この国のみなさんが当事者意識を持つことで、社会が変わって行くのではと思っています。原発を止める力を持つ、裁判官のみなさんにも、どうか、他人事ではなく、自分のことと思ひ、危険極まりない原発を止める手立てを考えてください。

また、こんな重要な裁判は、是非とも、日曜日に開いて欲しいと思います。

「司法改革」という言葉が随分前にありましたが、相変わらずの平日の昼間で、裁判所が市民にとっては遠い存在となっています。日曜日に裁判を開き、家族連れで裁判の様子が見られるようにして頂くことで、市民に開かれた司法になり、社会もより良くなっていくのではと思います。

ありがとうございました。

